



税金はどんな事業に使われているか

小川 壮一郎 議員 (宇仁小)

質問 加西市の税金は何に使われていますか。アクアスカさいの芝生を張り替えてほしいです。

答弁 一般会計の予算総額は 259 億円で、福祉施策が 29.5%、一般行政サービスが 22.3%、学校・こども園等が 10.3%、環境対策等が 7.9% です。アクアスカさいの芝生について、張替え頻度を検討しています。



加西のごみについて

菅野 翔太 議員 (九会小)

質問 ごみ処理場やリサイクルのことについて、加西市では資源ごみの分別はどうしていますか。

答弁 地域のごみターミナルに出される家庭系ごみは、燃やすごみ、埋立ごみ、小型家電など、7 種類 9 分別、加西市クリーンセンターの直接持込分と合わせると 8 種類 24 分別に分けています。



加西市の空き家について

常峰 由衣 議員 (宇仁小)

質問 空き家をリフォームして売り出したら、若い人が加西市に引っ越し、人口も増えると思いますがどう思われますか。

答弁 「えーがい加西」という組織による空き家利活用の PR のほか、空き家バンク制度の利活用、空き家のリフォームを補助しています。また、先進地の事例を調査しています。



小中学校の統合について

内藤 笑琉 議員 (賀茂小)

質問 小中学校統合の理由を教えてください。また、部活動の現状と統合後の計画はどうなっていますか。

答弁 児童生徒が減少する中、多様な人との関わりや学ぶ機会を確保するため、令和 10 年 4 月を目標に中学校を 2 校に再編します。部員数の減少で現在なくなっている部活動も、希望に応じて創設を検討します。



横断歩道での事故を減らす対策について

岸本 将輝 議員 (下里小)

質問 横断歩道での事故を防ぐため加西市は何か取り組んでいますか。「スピード抑制ハンプ」や「法定外表示」の設置を提案します。

答弁 未就学児や小中学生を対象にした交通安全教室、横断歩道や通学路の点検を行っています。「スピード抑制ハンプ」や「法定外表示」の設置は警察とも協議していきます。



スポーツを生かした街づくりについて

丸岡 愛 議員 (宇仁小)

質問 加西市はスポーツを生かしたまちづくりや、スポーツを愛する人を増やす取組をしていますか。

答弁 トライアスロン大会などを開催して多くの人を呼び込み、加西市の魅力を発信しています。様々なスポーツ教室に加え、一流選手などによる教室や観戦ツアーを開催し、スポーツ振興に取り組んでいます。



野生の動物がまちに下りてきている問題について

小川 颯太 議員 (宇仁小)

質問 野生動物が町なかに現れるようになり、人へ危害が及ばないか心配です。何か対策はありますか。

答弁 人の手が山から離れ、山と人の住む場所の境が曖昧となったことが理由です。対策として山際の樹木を伐採して見通しをよくしていますが、野生動物の食べ物となる果樹を放置しないことも重要です。



観光 PR について

三好 壮汰 議員 (九会小)

質問 加西市には福崎町の「妖怪ベンチ」のような観光 PR の取組はありますか。ぜひつくってください。

答弁 まちおこしは、地域の歴史や文化を生かして魅力的な商品やサービスをつくるのが大切です。加西市の活性化のため、自ら考えて行動する人を応援する仕組みをつくっていききたいと思います。



加西市の空き家や空き地について

藤永 瑛太 議員 (九会小)

質問 近所にある空き家や空き地にみんな困っています。加西市ではどのような取組をしていますか。

答弁 未然防止として「えーがい加西」という組織による空き家利活用の PR や、宇仁地区が県の空き家特区制度に適用され、空き家利活用のサポートを受けています。また、空き地対策を国へ要望しています。



加西市の町づくりについて

岡田 友里那 議員 (宇仁小)

質問 公園や遊び場、イベント開催、豊かな自然など、住みよいまちのためにどんな工夫をしていますか。

答弁 加西市のまちづくりの方針に「快適に暮らせる安全な社会をつくる」とあり、公園などは人が集まりやすい場所につくっています。今後、統合後の学校跡地利用に当たり、様々な意見を頂きたいと思います。



学校給食の取組について

定行 海翔 議員 (泉小)

質問 自校給食から給食センター方式に変更した理由と、地産地消や有機栽培の取組を教えてください。

答弁 子育て支援として全中学校で給食を実施するため、給食センターを整備しました。播磨農高と食育連携協定を結ぶなど地元産食材を積極的に活用し、今後は有機野菜なども利用していきたいと考えています。



新しくできる加西病院と今の医師不足について

長濱 龍太 議員 (泉小)

質問 新しい加西病院をどのような病院にしていく予定ですか。医師不足をどのように解決しますか。

答弁 2030 年度に開院予定の新病院は、急性期から回復期、高齢者の在宅療養支援などを担う予定です。奨学金制度やメディカルタウン構想、広域連携により医師確保に取り組んでいきます。